

202 (1) 仮説「1の目が出る確率 p は $\frac{1}{6}$ より大きい」を

否定する仮説「1の目が出る確率 p は $\frac{1}{6}$ に等しい」

を仮定して、これを帰無仮説 H_0 とする。また、最初の仮説を対立仮説 H_1 とする。

このとき、 H_0 、 H_1 は

$$H_0 : p = \frac{1}{6}$$

$$H_1 : p > \frac{1}{6}$$

(2) H_0 を仮定するとき、5回のうち3回以上1の目が出る確率は、

$$\begin{aligned} & {}_5C_3 \left(\frac{1}{6}\right)^3 \left(\frac{5}{6}\right)^2 + {}_5C_4 \left(\frac{1}{6}\right)^4 \left(\frac{5}{6}\right)^1 \\ & + {}_5C_5 \left(\frac{1}{6}\right)^5 \left(\frac{5}{6}\right)^0 \\ & = 0.03549 \dots \end{aligned}$$

この値は有意水準 0.05 より小さいから、 H_0 は棄却され、 p は $\frac{1}{6}$ より大きいといえる。

203 全国平均と異なるかを調べるから、両側検定として仮説を次のようにおく。

$$H_0 : \mu = 116.2$$

$$H_1 : \mu \neq 116.2$$

H_0 が成り立つと仮定すると、検定統計量

$$T = \frac{\bar{X} - 116.2}{\sqrt{U^2/10}}$$

は自由度 9 の t 分布に従う。 T の実現値 t は

$$\begin{aligned} t &= \frac{118.9 - 116.2}{\sqrt{24/10}} \\ &= 1.7428 \dots \\ &\approx 1.743 \end{aligned}$$

p 値を求めると

$$P(T \geq 1.7) = 0.0617$$

$$P(T \geq 1.8) = 0.0527$$

$$p > 2 \times 0.0527 = 0.1054 > 0.05$$

以上より、 H_0 は受容され、異なるとはいえない。

204 少なくなったかを調べるから、左側検定として仮説を次のようにおく。

$$H_0 : \mu = 350$$

$$H_1 : \mu < 350$$

H_0 が成り立つと仮定すると、検定統計量

$$T = \frac{\bar{X} - 350}{\sqrt{U^2/15}}$$

は自由度 14 の t 分布に従う。 T の実現値 t は

$$\begin{aligned} t &= \frac{348.3 - 350}{\sqrt{3.9^2/15}} \\ &= 1.6882 \dots \\ &\approx 1.688 \end{aligned}$$

p 値を求めると

$$P(T \leq -1.6) = P(T \geq 1.6) = 0.0660$$

$$P(T \leq -1.7) = P(T \geq 1.7) = 0.0556$$

$$p > 0.0556 > 0.05$$

以上より、 H_0 は受容され、少なくなったとはいえない。

205 A、B の平均消費電力をそれぞれ μ_1 、 μ_2 とすると、仮説を

$$H_0 : \mu_1 = \mu_2$$

$$H_1 : \mu_1 \neq \mu_2$$

とおいて、両側検定をおこなう。

ウェルチの t 検定の検定統計量 T について、実現値と自由度は、

$$t = \frac{4.8 - 5.2}{\sqrt{0.41^2/6 + 0.39^2/10}}$$

$$= -1.923 \dots$$

$$\approx -1.92$$

$$d = \frac{(0.41^2/6 + 0.39^2/10)^2}{\frac{(0.41^2/6)^2}{6-1} + \frac{(0.39^2/10)^2}{10-1}}$$

$$= 10.227 \dots$$

$$\approx 10.23$$

自由度 10 として t 分布表を用いると、 p 値は、

$$P(T \leq -1.9) = P(T \geq 1.9) = 0.0433$$

$$P(T \leq -2.0) = P(T \geq 2.0) = 0.0367$$

$$p > 2 \times 0.0367 = 0.0734 > 0.05$$

以上より, H_0 は受容され, 有意ではない.

206 男子, 女子の平均点をそれぞれ μ_1, μ_2 とすると, 仮説を

$$H_0: \mu_1 = \mu_2$$

$$H_1: \mu_1 \neq \mu_2$$

とにおいて, 両側検定をおこなう.

ウェルチの t 検定の検定統計量 T について, 実現値と自由度は,

$$t = \frac{66 - 74}{\sqrt{6^2/12 + 10^2/12}}$$

$$= -2.376 \dots$$

$$\approx -2.38$$

$$d = \frac{(6^2/12 + 10^2/12)^2}{\frac{(6^2/12)^2}{12-1} + \frac{(10^2/12)^2}{12-1}}$$

$$= 18.011 \dots$$

$$\approx 18.01$$

自由度 18 として t 分布表を用いると, p 値は,

$$P(T \leq -2.3) = P(T \geq 2.3) = 0.0168$$

$$P(T \leq -2.4) = P(T \geq 2.4) = 0.0137$$

$$p < 2 \times 0.0168 = 0.0336 < 0.05$$

以上より, H_0 は棄却され, 差があるといえる.

207 右側検定をおこない, 仮説を次のようにおく.

$$H_0: p = 0.03$$

$$H_1: p > 0.03$$

標本比率の実現値 \hat{p} は

$$\hat{p} = \frac{5}{100} = 0.05$$

検定統計量 Z の実現値 z は

$$z = \frac{0.05 - 0.03}{\sqrt{0.03(1 - 0.03)/100}}$$

$$= 1.172 \dots$$

$$\approx 1.17$$

片側検定だから, p 値は

$$P(Z \geq 1.17) = 0.1210 > 0.05$$

以上より, H_0 は受容され, 高くなったとはいえない.

208 両側検定をおこない, 仮説を次のようにおく.

$$H_0: p = \frac{1}{6}$$

$$H_1: p \neq \frac{1}{6}$$

標本比率の実現値 \hat{p} は

$$\hat{p} = \frac{32}{150} = 0.21333 \dots \approx 0.2133$$

検定統計量 Z の実現値 z は

$$z = \frac{0.2133 - \frac{1}{6}}{\sqrt{\frac{1}{6} \left(1 - \frac{1}{6}\right) / 150}}$$

$$= 1.532 \dots$$

$$\approx 1.53$$

両側検定だから, p 値は

$$P(Z \geq 1.53) = 0.0630$$

$$p = 2 \times 0.0630 = 0.126 > 0.05$$

以上より, H_0 は受容され, $\frac{1}{6}$ でないとはいえない.